

津波雑考

加藤 碩 一¹⁾

巷では、サザンオールスターズの「TSUNAMI」という歌が流行っていますが、内容的には「津波」とはなんの関係もありません。ただし、「ツナミ」という日本語は「スキヤキ」や「ハラキリ」などととも世界で通用している数少ない日本語の1つです。さて、それでは「津波」という語に対応する概念はいつごろからあったものなのでしょう。そのヒントを以下に少々紹介しましょう。

先日、世界四大文明展の1つである「メソポタミア文明展」を見に世田谷美術館を訪れました。主な目的の1つはルーブル美術館より借りだした日本初公開と銘うったハンムラビ法典を見るためです。第1図にあるように高さ約2.25mの黒色玄武岩製の岩塊表面にハンムラビ法典の内容が楔形文字で刻まれています。これは世界最古の法典といわれ、バビロニア王ハンムラビ(前1792～前1750)によって

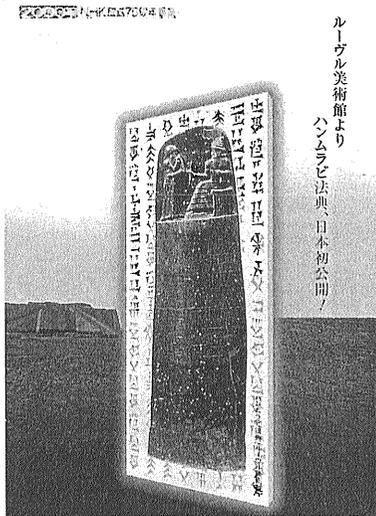
制定され、前1760年頃バビロニアのシッパルに石碑が建てられたものです。

282項目に及ぶ条文がありますが、この中に、第2図下に示したように「津波」という語が出てきます。「洪水」の事ではないかとの疑念も生じるでしょう。事実、メソポタミア地域の「大洪水」は海水面上昇氾濫に起因する紀元前3500年頃のものとして聖書の「ノアの大洪水」の伝承の元となった紀元前2800年頃のものをはじめ(金子, 1975)、毎年のようにあったと考えられます。

しかし、法典では「洪水」に対しては第2図上に示すように他の語が当てられています。当時のパルシャ湾の海岸線は現在よりはるかに内陸に湾入しており、パルシャ湾東岸はここ数千年間活発な地震活動域ですからバビロニア地域が「津波」の被害を受けたことはたびたびあったと推定されます。少なくともバビロニアにおいては言葉/概念の上で両者が区別されていたことは明らかです。

参考図書

- 飯島 紀(1997):ハンムラビ法典,405p.泰流社.
- 金子史朗(1975):ノアの大洪水,204p.講談社.



第1図 ハンムラビ法典を記した黒色玄武岩塊(「メソポタミア文明展」チケットより)。



wa-ar-ka eqlam¹⁾ adad ir-ta-hi-is
その後 燭に 神アダドが洪水を起こし



u, lu bi-ib-bu-lum it-ba-al
または 津波であれ 覆ったとしても

第2図 「津波」と「洪水」の楔形文字が記されているハンムラビ法典の一節(飯島, 1997)。

1) 地質調査所 次長

キーワード:津波,洪水,ハンムラビ法典